

# 豊田市公共施設現況調査報告書（概要版）

## 1 背景・目的

- 本市では、これまで市民サービスの充実や都市機能の向上を図るため、市民生活に欠かせない多くの公共施設を整備してきました。これらの公共施設は老朽化が進行しつつあり、今後は維持管理費用に加えて、施設更新等に伴う財政負担の増大が見込まれます。
- また、高齢化の急速な進行や人口構成の変容、市民ニーズの多様化など、公共施設を取り巻く状況は大きく変化しています。
- このような状況の中、市が所有する公共施設の利用状況、ランニングコスト等の基礎データを一元的に整理・分析するとともに、行政内部及び市民への「見える化」を図ることにより、公共施設の今後の在り方を共に考える基礎資料として、「公共施設現況調査報告書（報告書）」をとりまとめました。

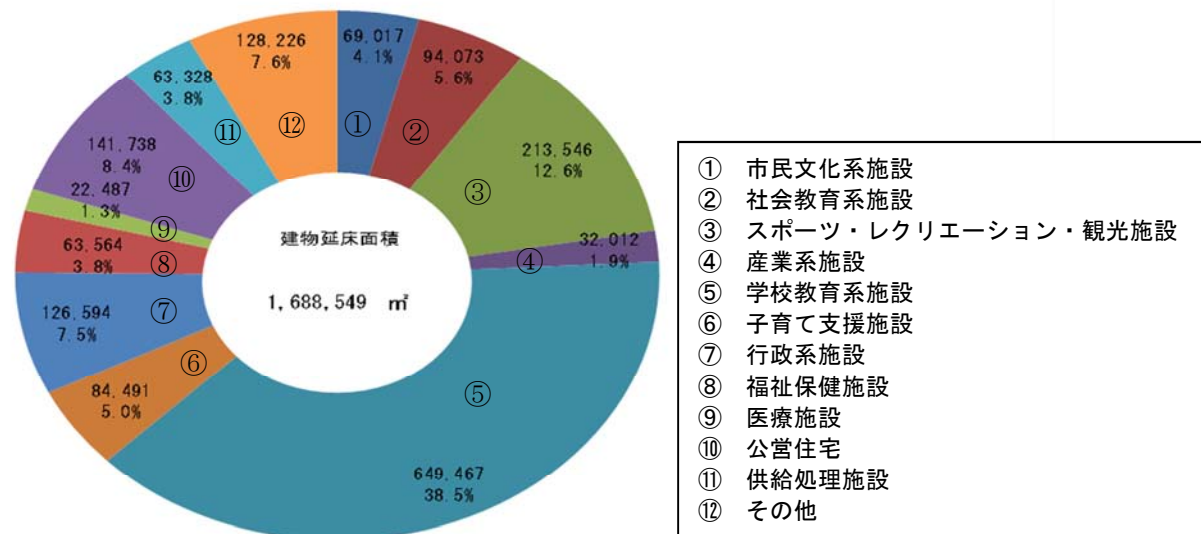
## 2 対象施設

地方自治法上の財産のうち全ての公共建築物  
 （道路・橋りょう等の公共土木施設及び企業会計上の財産である上下水道施設は除く。）

## 3 公共施設の保有状況

- 公共施設：1,169 施設、3,634 棟／総延床面積：約 169 万㎡
- 施設種別（12 種別）にみた内訳：学校教育系施設（38.5%）が最も多い
- 市平均一人当たり保有量（「市平均」）：4.0 ㎡  
 （全国市町村平均：3.4 ㎡、人口 40 万人以上都市平均（政令市除く）：2.9 ㎡）

### ◆施設区分別にみた公共施設の建物延床面積



## 4 公共施設の老朽化状況

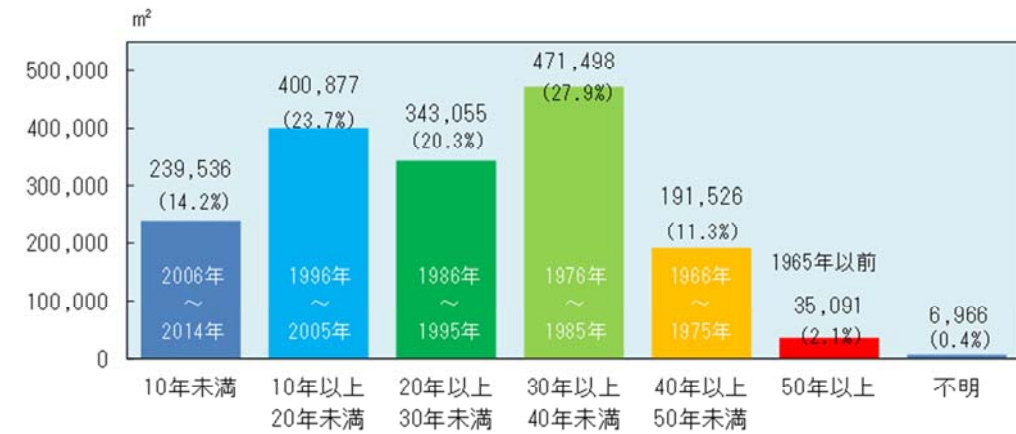
### ◆築年数別

市全体	築 30 年以上面積割合：41.3%（築 40 年以上面積割合：13.4%）
旧市内	築 40 年以上面積割合：11.7%（6 地区の平均割合）
合併区域	築 40 年以上面積割合：17.6%（6 地区の平均割合）

### ◆用途別

小・中学校	築 30 年以上面積の割合が最も高い（小学校：59.6%、中学校：68.3%）
交流館	他用途よりも老朽化の水準は低い（築 30 年以上面積割合：13.6%）
支所	全体的に老朽化が進行している（築 30 年以上面積割合：62.4%）
こども園	小・中学校よりも老朽化の水準は低い（築 30 年以上面積割合：36.1%）

### ◆老朽化（築年数）別にみた公共施設の建物延床面積



## 5 市有財産最適化に向けた考え方

- 将来を見据えて市有財産に求められる行政サービスの質の維持・向上を図りながら、経営的視点に立った全体最適化を推進するため、3つの基本方針に基づき具体的な取組を展開します。
- 事業展開に当たっては、各基本方針に基づく取組を一体的に実践することにより、当面の課題を解決するとともに、中長期的な視点からの財政負担の軽減・平準化やまちづくり等に資する機能の配置・確保につなげていきます。

### ◆取組方針

<b>方針 1</b> 公共施設の有効活用・再配置	① 地域の拠点的な施設等への機能集約、複合化 ② 公共施設の保有量を現状以下に抑制 ③ 民間活力を生かした施設運営
<b>方針 2</b> 公共施設の計画的・効果的な維持保全	① 公共施設の安全・安心な状態の維持 ② 公共施設の維持管理費の抑制 ③ 更新費用の平準化による財政の長期健全化
<b>方針 3</b> 未利用財産の利活用	① 公共利用、行政施策等に資する利活用 ② 未利用財産の削減による管理の健全化 ③ 歳入確保につながる利活用策の実施